



大町商店街にある、キッズスペース併設の
コワーキングスペース「MARUWWAニコメ」。
そこに集うママや働く人々が自分たちの
目線で見つけた、これから活躍しそうな
ヒト・モノ・コトなど身のまわりの新しい芽。
それが「ニコメ(二個目)のメ(目・芽)」です。

MARUWWAニコメ
〒017-0841 大館市字大町9
TEL: 0186-59-5305
https://maruwwa.com/nicome/



Vol.23

わたし目線でみつけたこの街の新しい芽

今月のメダマ

〈対談インタビュー①〉

県外から北鹿地域に移り住んで



違う土地から来たからこそ見えるもの、感じること。MARUWWAニコメには、移住やUターンをして北鹿地域で活躍している人たちが集います。そんな人たちに、実際に住んでみて感じたことや魅力について、ざっくばらんに語ってもらいました。



まなべ ゆうじ
真鍋 雄次さん (41)

香川県三豊市出身。2020年3月に家族で鹿角市大湯へ移住し、鹿角市移住コンシェルジュとして活動中。



おくむら ひろゆき
奥村 裕之さん (32)

埼玉県越谷市出身。2018年に奥様の地元である大館市へ家族で移住。スリー株式会社取締役/CTO。



あんどう りん
安藤 鈴さん (24)

大阪府堺市出身。2021年3月に大館市へ移住。大館市地域おこし協力隊、「秋田犬の里」活性化コーディネーター。

—移住のきっかけは？

安藤鈴さん (以下、**安藤**) 大学の頃から東北に興味があったので、仕事を辞めたことをきっかけに思い切って地域おこし協力隊に応募しました。

真鍋雄次さん (以下、**真鍋**) 家を買おうと思った時に、色々な土地を広く探した中で鹿角に決めました。香川は人口密度が高くマンション住まいが多いのですが、秋田は家の単価が安くて、持ち家率全国1位なのが決め手でした。

奥村裕之さん (以下、**奥村**) 僕は以前から、子供ができれば地方(妻の実家)で育てたいと思っていました。仕事はインターネット系なのでどこでもできるし、なら子育てにいい環境がいいなど。

—実際に住んでみてどうですか？

安藤 思っていたより住みやすいし、あったかくて優しい人が多いです。あと星が綺麗！ 普段何気なく見上げる星空が、本当に綺麗でびっくりします。

奥村 確かに。自然については、こんなにいい環境は無いと思います。今年は自

然を体感したくて、溪流釣りを始めるつもりです。

真鍋 「何もない」ではなく、大きい自然がドカンと「ある」。移住ツアーで東京の子供達を案内すると、広い場所をただ全力で走るだけで、ものすごく楽しそうにしています。

—イメージと違ったことや、暮らしにくさを感じることは？

安藤 雪の多さにはびっくりしたけど、暮らしにくさは特にないです。コンビニも電気屋も近くにあるし。もっと何もないのかと思っていました(笑)。

奥村 同じく、雪は大変だけど、他は思ったより不便じゃないですね。でも、動物園とか水族館とか、子供を連れて行けるところが近くにないのはちょっと困るかな。

真鍋 僕は香川の小さな町から来たので、むしろこっちの方が便利です。……なんだろう。ほんとにないなあ。悪いところを探すのが本当に難しい。

安藤 強いて言うなら、遠くに行く時に車しか手段がないことです。交通機関が充実したら、もうちょっと人が増えるんじゃないかなと思います。

—移住先として秋田はオススメですか？

真鍋 めちゃくちゃオススメです。「よく来てくれた」「明かりがついているだけで嬉しい」とみんなが受け入れてくれます。鹿角の一番の魅力は「人」だと思います。

奥村 合理的に考えて、大館は暮らしや

ずいと思います。空港も近いし、海がないから水の災害にも強い。仕事柄色々な土地に行くのですが、「いい所だな」と思うことはあっても、「住みたい」と思うことはあまりないんです。ビジネスの面でも、大手が参入しにくい秋田は穴場中の穴場。

真鍋 新しいことを始めるための余白がちゃんと残されてるところが、いいですね。地元の人「商店街にシャッターが下りて活気がない」と言うけど、それは新しい人がそこに入るチャンスがたくさんあるということで、否定的に捉える必要は全然ないと思うんです。

安藤 こっちの人って地元の魅力にあまり気付いてないなと思います。よく「なんでわざわざ大阪からこんなところに来たの？」って言われるけど、大館の良さはいっぱいあるし、私たちも発信していくので、もっと地元を愛してほしいです。

真鍋 魅力がないから人が来ないのではなく、魅力に気付いてないだけだと思うんです。物は作れるし買えるけど、自然は作れないし、人の良さはお金では買えない。あとは良さをもっとうまく伝えられさえすればと思っています。

【対談を終えて】

無理に新しいものを作らなくても、この土地にはちゃんと魅力があるのだと気付かせてもらいました。当たり前に見えるものをひとつひとつ丁寧に拾い上げて発信していけば、もっともっと元気な街になるのかもしれない。

(大館在住ライター：丹波桃子)

北鹿ネコつながり

いしころキラリ

雪国に春を知らせる色

この春の服選びを楽しんでいると、鮮やかな緑色がよく目に入ります。トレンドカラーに挙げられているのはビタミンカラーのビビッドなグリーン。見ただけで元気になるような、パッと明るい色です。

一口に緑色と言っても中身はさまざま。生まれたての新芽のように柔らかなパールグリーンや、力強い生命力を思わせる夏の葉っぱ、しっとりとした落ち着いた深い苔の色。四季を彩る自然を辿るように、「緑」は姿を変えます。

灰色のアスファルトも茶色い木の枝も、丸ごと白一面に覆い

隠される雪国の冬。そこかしこに雪が残るうちから真っ先に地上へと顔を出すふきのとうの優しい薄緑色が、白銀色のページをそっと閉じて私たちに春を知らせてくれます。特に雪の多かった今年は、健気に芽生えるコロんとまるい蕾がひとときわいとおしく見えてくるのです。

景色も心も色づき始める季節。何も変わらないようできて、きっといろんなことが昨日よりも一歩前に進んでいます。雪が消えた道沿いのかわいらしいふきのとうは、今年も私たちを春へと導いてくれました。



平泉銀ちゃん④・とむちゃん⑥
(大館市)
先住犬のことが大好きでとても仲良しです。